

令和元年6月19日現在

機関番号：35309

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17414

研究課題名（和文）保健体育科教員志望者の実践的指導力の育成を目指した挑戦的な模擬授業の実践と検証

研究課題名（英文）Practice and verification of a challenging Micro-teaching aiming at the development of practical teaching skill of health and physical education prospective teachers.

研究代表者

中川 麻衣子（Nakagawa, Maiko）

川崎医療福祉大学・医療技術学部・講師

研究者番号：30551874

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では保健体育科教員を志望する学生が挑戦的な模擬授業を経験することの意義を検証することを目的とした。本研究では挑戦的な保健体育科の模擬授業として「苦手な単元・経験のない単元の模擬授業、養護教諭志望者と協同で実践する保健の模擬授業、初年度または教員養成段階の早い段階で模擬授業の3点を中心に4年間にわたり実践し、いずれも大学の教員養成教育において実践的指導力の育成に貢献する意義がある実践であることが検証された。今後は、保健体育科の教科の特徴を踏まえた挑戦的な模擬授業の実践が期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は「挑戦的な模擬授業の検証と提案」を行うことにより、大学の教員養成の現状と課題を検討を問う研究となった。我が国における多様な教員養成の実態から大学生を対象とした模擬授業の機会の工夫により実践的指導力の保証を行うことが求められており本研究課題において着目した「挑戦的な模擬授業」は有効であることの提案ができた。また、今後は、教員養成を担う大学は「採用・研修」への接続を意識した「養成」の充実が求められており、学校現場で学び続けることができる教員の育成を目指した教員養成カリキュラムの充実が求められる。

研究成果の概要（英文）：It is the study for the purpose of inspecting the significance of health and physical education prospective teachers. The following three points are the "challenged Micro-teaching" targeted in this study. Micro-teaching to practice weak and inexperienced units, Micro-teaching of health department to practice in cooperation with a student to be a school nurse, Micro-teaching to practice in the first grade of university. After four years of practice, it was found that challenging Micro-teaching are effective in teacher training education at universities. Not only will teacher training at universities be conservative in guaranteeing a teacher's license, but from now on more challenging practices should be broadened by the "features of the subject" of the "Health and Physical Education Department".

研究分野：保健体育科教育

キーワード：保健体育科教育 教員養成 挑戦的な模擬授業

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2006年7月中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」において、「教員として最小限必要な資質能力」の一つとして「実践的指導力」が示され、2012年8月「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」においては、「養成課程における実践的指導力の育成」が強調され、教員養成において「実践的指導力」に触れずに論じることができず、教員養成を行う各大学は、実践的指導力の育成を見据え、各大学の実態に応じた教員養成に取り組んでいる。一方、「保健体育科」についていえば、平成20年告示中学校学習指導要領により、全ての単元が必修となり、教員自身も幅広い知識と実践力が問われるようになってきている。特に、「ダンス」「武道」の必修化は、これらの単元の経験のない教員および教員志望者もいるという現状のもと、大学における教員養成教育だけでなく、現職教員を対象とした研修等が実施されている。以上のような教育現場を背景に、「教職大学院」も設置され、教員養成教育を担う大学は、高いレベルでの学びを望む学生によりニーズのあった大学院への進学を進めるとともに4年間を見通したカリキュラムにより「学士レベル」における教員養成、そして、「実践的指導力」の育成により質保証が課題である。

実践的指導力育成において実践されている取り組みが「模擬授業」である。木原(2011)は、「教員養成の中核的な役割を担う教育実習や模擬授業といった体験は、『理論と実践の往還』を可能にする重要な位置づけをもつ科目である。」と述べているように、模擬授業は主に、教育実習を見据えて、教員養成教育において広く実施されている。ただ、模擬授業は主に教育実習を見据えた教育実習前年度に行われており、その実践方法も学校現場のあらゆる事例に備えて挑戦的なものではなく、教育実習を見据えた堅実的なものであるように捉えることができる。

2. 研究の目的

本研究は、保健体育科の教員養成校における模擬授業に着目し、教員養成教育における保健体育科の模擬授業の実態(目的および評価方法)を明らかにするとともに、申請者が提案する実践的指導力を見据えた「挑戦的な模擬授業」の実践および検証により、「挑戦的な模擬授業の提案」(仮称)を行うことを目的とする。

具体的な研究課題を以下3点示す。第1の研究課題は、国内の教員養成教育における保健体育科の「模擬授業」の実践の実態調査、特に実施の目的と評価方法を明らかにする。第2の研究課題は、「苦手な単元・経験のない単元の模擬授業の実践」、「養護教諭志望者とのチームティーチングを活用した模擬授業」、「初年次教育における模擬授業」の実践と検証を行う。第3の研究課題として第1・2を踏まえて、「挑戦的な模擬授業の提案」(仮称)を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 国内の模擬授業に関する調査研究

国内の保健体育科教員の養成を行う大学に対して、質問紙調査による「模擬授業の実施調査」を行い、さらに、協力をいただける大学については、担当教員を対象とした訪問調査を実施し、調査結果をまとめる。質問項目については、「模擬授業の実施時期 模擬授業の実施方法 模擬授業実施の目的 模擬授業の評価方法等」を含むものを作成予定である。

(2) 挑戦的な模擬授業の実践

「苦手な単元な単元に挑戦する模擬授業の実践」

保健体育科教員を志望する3年生を対象とした実践であり、「苦手な単元、経験のない単元」による実践を行い、実施後は岩田ら(2010)のリフレクションシートによるリフレクションを行う。また、同意が得られた対象者2~3名について、実践後の振り返りについてのインタビュー調査を行う。また、本実践について、ビデオカメラで撮影し、実践後に本取り組みについての受講生による議論の場を設け、ボイスレコーダーにて録音する。

「養護教諭志望者とのチームティーチングを活用した模擬授業」の実践

3年生または4年生を対象とした実践する。対象学年については、養護教諭養成の担当教員と十分な打ち合わせによって行う。実践後には、リフレクションシートによるリフレクションを行うとともに、批評会を実践し、その様子はボイスレコーダーで録音し、分析を行う。

「初年次の模擬授業」の実践

保健体育科の教員を志望する1年生を対象に行う。この場合、対象者が少なくなることも予想されるが、他の学年の教員志望者より協力者を募集し、模擬授業を進める。

(3) 挑戦的な模擬授業の提案

(1)・(2)を踏まえて、挑戦的な模擬授業の提案を行う。

4. 研究成果

(1) 国内の模擬授業に関する調査研究

保健体育科教員の養成を担う大学を対象としてインターネット上で公開されているシラバスを対象として、その実施状況について調査を行った。その結果、対象としたすべての大学において教員養成段階において模擬授業を実践していた。詳細を確認すると、実施内容については「授業実践の経験」に重きを置いているものが多い傾向にあったが、中にはその内容については特徴的な実践がみられる大学もみられた。

上記を踏まえて、大学の講義において模擬授業を担当している教員への聞き取り調査では以下のような現状が明らかとなった。

・(受講者数が多いことから)全ての受講者が模擬授業を実践する機会を設定することは難しく、他の実践の生徒役や観察者のみの経験にとどまる受講生が多くいることもある。

・(受講者数が多いことから)全ての受講者の模擬授業に対して細やかな指導をすることは難しく、工夫が必要である。

・(実際の児童・生徒ではないので)大学生間の模擬授業の実践では限界があると考えため大学では最低限のことを学び教育実習での保証を期待したい。

上記より、様々な背景により、養成段階の模擬授業は最低限の資質保証の実践にとどまり、教育実習を見据えた保守的なものにとどまっていることが窺われた。ただし、上述した通り、シラバス調査からの工夫された模擬授業の提案もみられることから、今後広く発信されることが期待される。

(2) 挑戦的な模擬授業の実践と検証

苦手な単元に挑戦する模擬授業の実践の成果と課題

本研究課題において、保健体育科において、苦手な単元に積極的に挑戦する模擬授業の実践について検討した。平成26年10月から12月の実践での対象者28名について、得意な単元の模擬授業を実践した対象者が13名、苦手な単元を実践した対象者15名であった。苦手な単元を実践した対象者のうち、13名(約86.7%)が教育実習等を見据えて苦手な単元の模擬

授業への挑戦により授業力向上を目指す傾向にあることが明らかとなった。

以上より、「苦手な単元の模擬授業」を経験することにより、教員の資質向上のために幅広い単元の指導経験の必要性に気づき、これらの経験を踏まえて授業実践における自己の課題の解決を目指す傾向にあることが窺えた。一方で、本結果を踏まえると、教員養成の早期の模擬授業の経験により、大学における学びの系統化につながることを期待されることが示唆された。

また、ここでは本研究課題においては、「養護教諭志望者と連携した保健の模擬授業の実践」と関連して、中学校の保健分野、高等学校の科目保健において、様々な題材に触れる模擬授業の実践を検証した。その結果、自己の「リフレクション」を深化させる際に、保健の模擬授業における座学形式の学習形態が観察者の学生にとって有効であるという点であることと、保健の模擬授業では、「板書」や「説明」に関する記述が多く見られる傾向が示唆された。

養護教諭志望者と連携した保健の模擬授業の実践の成果と課題

保健体育科の教員養成教育において、養護教諭志望者との協同の授業実践の実践によって、以下の成果がみられた。

ア． 養護教諭志望者と協同で実践する模擬授業により、観察者（生徒役）のリフレクションは特に教材等に関する記述が増加する傾向にあった。

イ． 教育実習後の調査に着目したところ、教育実習における実践を通して「生徒の実態に合わせた模擬授業の実践が必要である」であったと解答している。また、模擬授業の実践について役立った点については「時間配分」や「教材研究」であった。また、「挑戦的な模擬授業の実践」において、養護教諭との協同の模擬授業を経験また教育実習において、養護教諭および他の機関と連携した授業に挑戦したのもみられた。

以上により、「養護教諭と連携した模擬授業の実践」により、授業の振り返りの視点を広げることにつながるということが明らかとなった。同時に、教育実習における積極的な教材研究および授業実践につながっているおり、これは学校現場での実践に繋がることを期待することができることが示唆された。

初年次における模擬授業の実践の成果と課題

本研究課題については、教員免許状を主な資格としない一般大学・学部における実践はカリキュラム等の都合上、困難であった。そこで、教員養成大学・学部における実践について、研究協力によって得た実践について報告する。

対象は、教員養成大学・学部であり、保健体育科の教員免許取得を目指す1年次の学生が受講する講義であり、その内容は、保健科教育を総合的に学ぶ科目である。この講義において担当教員の協力により、講義内において模擬授業を導入した。なお、模擬授業については、学習指導案を作成し、導入のみを受講学生間で実践するものとした。初年次の模擬授業の実践後の受講生の振り返りの記述から、模擬授業を実践することで授業実践の魅力に触れ、授業実践への意欲につながっている記述がみられた。また、「今後学ぶべき事が分かった」等の記述がみられ、大学の教員養成の初期に実施することの意義に関連する記述もみられえた。

以上により、「初年における模擬授業の実践」により、教職への学習の意欲につながることが期待されることが示唆された。他方、初年度から教科教育に関する科目の開講がない一般大学・学部での導入の可能性については引き続き検討が必要である。

(3) 挑戦的な模擬授業の提案

本研究において、苦手な単元に挑戦する模擬授業の実践、養護教諭志望者と協同で実践する模擬授業の実践、初年度に実践する模擬授業の実践、についての実践および検証により、「挑戦的な模擬授業」において受講者が授業実践者・生徒役・観察者の3つの立場からの実践およびリフレクションにより、実践的指導力の育成につながる一定の成果がみられた。

本研究課題において に加えて取り組んだ挑戦的な模擬授業の実践を紹介する。

ア．ICT を活用した保健科・体育科の模擬授業の実践

学校現場での実践をみすえて、模擬授業において積極的なICTの活用による模擬授業の実践を推奨した。これにより、PC、プロジェクター、タブレット端末を活用した模擬授業を実践し、それらを検証する授業実践がみられた。また、授業者・生徒役・観察者ともに授業実践後のリフレクションにおいてICTの有効性について分析・整理を行う傾向にあった。

イ．他職種連携を意識した模擬授業の実践

養護教諭志望者と連携した模擬授業の実践に関連して、研究協力者提案（藤原有子氏）により、保健の授業における他職種連携を意識した授業実践に取り組んだ。養護教諭志望者と連携した授業実践と同様に、リフレクションの視点が広がる傾向にあった。また、授業者・生徒役・観察者ともに授業実践後のリフレクションにおいて本実践を含む「複数教員が連携して取り組む授業実践」の有効性についての分析・整理を行う傾向にあった。

上記2点について共通して、模擬授業の実践より、実践についての有効性の分析・整理を行う傾向がみられた。つまり、学校現場で期待されているこれらの実践を教員養成段階において経験することにより、有効性の分析・整理を踏まえて、学校現場での実践に速やかに対応できるのではないかと予想することができる。

また、本研究課題では、様々な「挑戦的な模擬授業の実践」を経験した学生については授業後のリフレクションの習慣の定着につながったことも成果としてあげることができる。授業を振り返り、改善する能力は教育実習およびその先の学校現場で求められる資質の一つであり、挑戦的な模擬授業を行うことで「リフレクション能力」をより一層、磨くことができたのではないかと予想される。

最後に、本研究課題により得られた成果を踏まえて、大学の教員養成における「模擬授業の実践」を中心とし教育実習前後の取り組みをまとめた（図1）。大学の教員養成では、「挑戦的な模擬授業」の経験とリフレクションを教育実習と関連しながら継続して行うことが重要である。またこれらに関連して、教育実習を含む大学の教員養成全体の振り返りを踏まえた学校現場での実践を見据えた「挑戦的な模擬授業」の実践も可能である。つまり、大学における模擬授業は、大学の養成から現職研修につながる実践の一つとなることがいえる。そして、今後は、平成29年・30年改訂の学習指導要領を踏まえ、大学における「挑戦的な模擬授業」は実施方法を含めてより一層の改善と新たな提案が期待される。

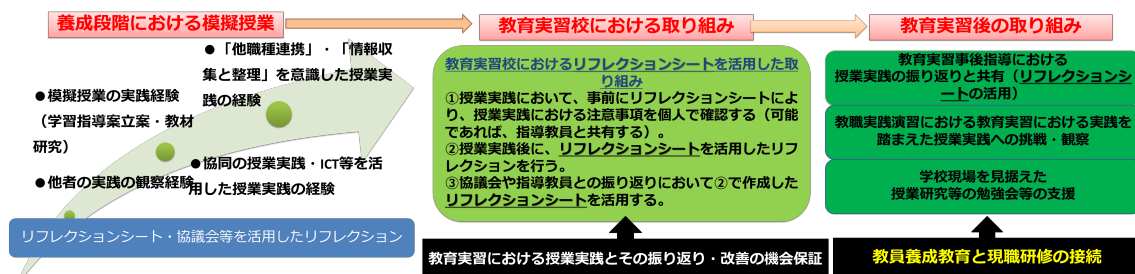


図1 挑戦的な模擬授業を中心とした大学の教員養成の在り方の提案

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(1件)

中川麻衣子・藤原有子(2018) 教員養成における保健の模擬授業の実態と課題の検討：「他者の実践を対象としたリフレクション」に着目して川崎医療福祉学会誌 27(1) 105 - 113 査読有

(学会発表)(10件)

中川麻衣子・藤原有子 保健体育科の教員養成における保健の模擬授業の実践と検討—教育実習後の振り返りに着目して— 日本学校保健学会第65回学術大会 平成30年12月1日 大分大学

中川麻衣子 保健体育科の教員養成における保健の模擬授業の実践と検討—養護教諭志望者との協同の授業実践への挑戦を通して—日本学校保健学会第64回学術大会 平成29年11月5日 宮城教育大学

中川麻衣子・岩田昌太郎・齊藤一彦・濱本想子 大学における複数の保健体育教師教育者による協同の授業実践の実態と検討 日本教科教育学会全国大会 平成29年9月10日 北海道教育大学

室本佳祐・中川麻衣子・岩田昌太郎 ティームティーチングに関する研究動向とその特徴に関する再考 日本教科教育学会全国大会 平成29年9月10日 北海道教育大学

中川麻衣子 保健体育科教員養成における保健分野の模擬授業の実践についての検討 - 教育実習に着目して— 日本学校保健学会 第63回学術大会 平成28年11月20日 筑波大学

中川麻衣子・岩田昌太郎 私立大学における体育教師教育者の苦悩と成長に関する事例研究 - 「複数教員が協同で学生を導く模擬授業の実践」に着目して— 日本教科教育学会全国大会 平成28年10月26日 鳴門教育大学

中川麻衣子 体育教師教育における体育科模擬授業の実践的検討 —「苦手な単元に挑戦する模擬授業」に着目して— 岡山体育学会 平成28年3月25日 川崎医療福祉大学

中川麻衣子・難波知子・藤原有子 保健体育科教員養成における保健分野に関する研究 —教育実習における実践に着目して—日本学校保健学会 第62回学術大会 平成27年11月28日 岡山大学

中川麻衣子・岩田昌太郎(2015) 体育教師教育者の授業改善を意図した Self-Study による事例的検討 日本教科教育学会全国大会 平成27年10月25日 広島大学

6. 研究組織

(1) 研究協力者

岩田 昌太郎 IWATA, Shotaro

藤原 有子 FUJIWARA, Yuko

難波 知子 NANBA, Tomoko

中道 莉央 NAKAMICHI, Rio

室本 佳祐 MUROMOTO, Keisuke